



キム・ヨハネ

滞在期間: 2008年4月

国籍: 韓国

所属: 大韓合気道会

2週間だけでしたが、住み込んだことで多くの影響を受けたようです。韓国のユン氏が合気道に出会って早二十年。若い世代が着実に成長してきています。

小林道場訪問記

キム・ヨハネ

ユン先生の「必ず生きて帰って来なさい」という冗談混じりの一言から始まった私の旅は興味深い出来事の連続だった。

その中のいくつかを話してみる。

まず一番目には、小林先生である。韓国でユン先生はいつも小林先生のことを話していたし、私も小林先生に教を請うことを望んでいた。

小林先生は世間一般では「高齢者」の部類に入る年代にも関わらず、弟子たちに自ら体を動かし技の模範を示しながら、とても楽しく指導される姿を目の当たりにすると、やはり尊敬せざるを得なかった。稽古での技術的な面での驚きは言うまでもなく、勢いとかカリスマというよりも、弟子たちに向けた暖かい愛情と終始一貫の笑顔、吸い込まれるような熟練さが漂っていた。そこにいと本当に一つの「家族」になったように感じさせてくれる気がした。

二番目は、子供クラスの時間である。韓国の私の道場には子供クラスがなく、このように子供に接することがない。そこでは大人の稽古とは違って主に体力づくりとゲームを主に稽古していた。彼等はきっと大人になっても合気道の楽しさを忘れずにずっと修練していくことだろう。

三番目は、女性会員が多いという点である。

実は韓国は合気道の女性人口が少ない。明治大学の女子部員など、熱心に稽古に臨む女性が道場にいるということは、羨ましいと感じた。

もう少し滞在したかったが、長くない二週間の日程で、体がちょうど慣れ始めた、というところで住み込みが終わってしまったような感じがする。内弟子生活は実は韓国でもしたことだし、他に二人の気さくな住み込み仲間もいたので、掃除や一日数回の稽古も苦労なく慣れることができた。ただ意思疎通に少し問題



があった為、英語の実力もあまり良くないのに、日本語も全く喋れない状態だと、例えば、頼んでもないハンバーガーが二つも出てしまうこともある。金曜日の朝食のための食材をスーパーで買うのが非常に困難だったことや、稽古の後に周りの人達が何か声を掛けてくれるのにまともに返事ができなく、皆と親しくなれなかった事は本当に悔しい。

しかし韓国で人気の有る大林さんに会えたことも良かったし、日本の食べ物も本当に美味しくて日々が楽しかった。今回納豆を初めて食べたが、とても美味しかった。

次回、もう少し上達した日本語を身に付けて、再び訪問できる事を望みながら、この二週間心地よくいられるように配慮して下さった小林先生と弘明先生、そして皆に感謝する気持ちでいっぱいである。

